

名前（ ） 日づけ（ / ） できた数（ /28）

使い方 本文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。この話の山は「聞こゆ」の敬意の方向、⑪「られ」が受身か尊敬かの見分け、そして「ぞ～ける」の係り結びです。

あらすじ＝公世の二位の兄にあたる良覚僧正は、たいそう怒りっぽい人だった。住まいの僧坊のそばに大きな榎の木があったので、人々は「榎の木の僧正」と呼ぶ。僧正はその名が気に入らず、その木を切ってしまうが、残った切り株から、今度は「きりくひの僧正」と呼ばれる。ますます腹を立てて切り株を掘り捨てたところ、その跡が大きな堀になり、とうとう「堀池の僧正」と呼ばれてしまった。消そうとむきになるほど新しいあだ名が生まれる、短い笑い話である。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

①公世（きんよ）の二位（にゐ）の②せうとに、③良覚僧正（りやうがくそうじやう）と④聞こえしは、⑤きはめて⑥腹あしき人⑦なりけり。⑧坊（ばう）のかたはらに、大きな榎（え）の木のありければ、人、⑨「榎の木の僧正」とぞ言ひける。「この名、⑩しかるべからず」とて、⑪かの木を切られにけり。その根のありければ、⑫「きりくひの僧正」と言ひけり。⑬いよいよ腹立ちて、きりくひを⑭掘り捨てたりければ、その跡、大きな堀にてありければ、⑮「堀池の僧正」とぞ言ひける。

語注 公世の二位＝從二位の位にあった藤原公世。「二位」は位階の一つ。せうと＝男のきょうだい。ここでは兄。教科書によっては「兄弟」と訳す。僧正＝僧の位のうち最も高い位。聞こゆ＝「言ふ」の謙譲語で「申し上げる」。ここは「と申し上げた（お呼びした）」。「きはめて＝この上なく。たいそう。腹あし＝怒りっぽい。気が短い。坊＝僧の住まい。僧坊。榎＝大きく育つ落葉樹。しかるべからず＝ふさわしくない。あつてはならない。きりくひ＝木を切ったあとに残った切り株。いよいよ＝ますます。堀＝地面を掘ってできたくぼみ。水がたまれば堀池になる。※教科書によっては「榎木僧正」「堀池僧正」と、「の」を入れない表記になっている。お使いの教科書の表記に合わせる。 ※『徒然草』第四十五段。作者は兼好法師。

A 語句の意味と読み (1～6)

(1) ② 「せうと」の意味を書け。

(2) ③ 「良覚僧正 (りやうがくそうじやう)」を、現代仮名遣いの平仮名で書け。

(3) ⑤ 「きはめて」の意味を書け。

(4) ⑥ 「腹あしき」の意味と、終止形を書け。

(5) ⑫ 「きりくひの僧正」の「きりくひ」とは何か、書け。

(6) ⑬ 「いよいよ」の意味を書け。

B 文法 (7～12)

(7) ④ 「聞こえし」の「し」は、何の助動詞の何形か。そうなる理由も書け。

(8) ⑦ 「なりけり」の「なり」と「けり」を、それぞれ文法的に説明せよ。

(9) ⑩ 「しかるべからず」を単語に分け、「しかる」と「べから」をそれぞれ説明せよ。

(10) ⑪ 「かの木を切られにけり」の「られ」は、受身・尊敬・可能・自発のどれか。そう判断できる理由も書け。

(11) ⑪ 「かの木を切られにけり」の「に」は何か。文法的に説明せよ。

(12) ⑮ 「堀池の僧正」とぞ言ひける」の「ぞ」の働きを答え、結びの語とその活用形も書け。

C 主語・指す内容・敬意の方向 (13～17)

(13) ④「聞こえし」の「聞こゆ」は敬語の種類として何か。また、誰から誰への敬意か。

(14) ⑧「坊(ぼう)」とは誰の住まいか。本文に即して書け。

(15) ⑨「榎の木の間正」と呼んだのは誰か。本文中から一字で抜き出して書け。

(16) ⑩「しかるべからず」は誰の言葉か。

(17) ⑪「かの木を切られにけり」の主語は誰か。

D 口語訳 (18～21)

(18) ①～⑦をふくむ「公世(きんよ)の二位(にゐ)のせうとに、良覚僧正(りやうがくそうじやう)と聞こえしは、きはめて腹あしき人なりけり」を口語訳せよ。

(19) ⑩⑪をふくむ「この名、しかるべからず」とて、かの木を切られにけり」を口語訳せよ。

(20) ⑬⑭をふくむ「いよいよ腹立ちて、きりくひを掘り捨てたりければ」を口語訳せよ。

(21) ⑮をふくむ「その跡、大きな堀にてありければ、「堀池の間正」とぞ言ひける」を口語訳せよ。

E 内容・記述 (22～25)

(22) ⑨「榎の木の間正」というあだ名がついたのはなぜか。本文に即して書け。

(23) ⑩「しかるべからず」と考えた良覚僧正がとった行動を、順に二つ書け。

(24) ⑭「掘り捨てたりければ」とあるが、その結果どうなったか。本文に即して書け。

(25) ⑨「榎の木の間正」・⑫「きりくひの間正」・⑮「堀池の間正」とぞ言ひける」とあだ名が移り変わる。この話のおもしろさはどこにあるか、四十字以内で書け。

F 文学史 (本文全体をふまえて答える) (26～28)

(26) この文章の出典『徒然草』の作者名と、成立したおおよその時代を書け。

(27) 『徒然草』は、『枕草子』ともう一つの作品とあわせて何と呼ばれるか。そのもう一つの作品名と作者名も書け。

(28) ③「良覚僧正(りやうがくそうじやう)」のような人物のおかしみを書きとめたのが『徒然草』である。その序段の書き出しを、初めの九字で書け。

【テスト直前チェック】この三つ ①⑪「られ」は受身ではなく尊敬。木を切ったのは良覚僧正自身で、他から動作を受けてはいません。「お切りになった」と訳し、作者から僧正への敬意と答える。②「ぞ」の結びは連体形。⑮「とぞ言ひける」は過去の「けり」が連体形「ける」で結ばれた係り結び。終止形「けり」と書くとバツ。③記述の答えは「むきになるほど新しいあだ名がつく」。⑨榎の木→⑫きりくひ→⑮堀池と移る順を、木・切り株・堀とセットで押さえる。